



第一礼拝次第

説教：渡真利彦文牧師

前	奏			
頌	栄	5 4 0	会 衆	
主の祈り			〃	
プレイズ		「主の前にひざまずき」 「あがめます主の御名」	〃	
聖書朗読		へブライ 12:1-3	司 会	
祈 禱		(新約聖書 p416)		
賛 美		1 9 4	会 衆	
説 教		「イエスを見つめて」	牧 師	
祈 禱				
賛 美		新生 2 7 8	会 衆	
聖 餐 式				
献 金				
報 告			司 会	
頌 栄		新生 6 7 2 b	会 衆	
祝 禱			牧 師	

<巻頭言>

「今を生きる」

牧師 渡真利彦文

8月が終わり、9月を迎えた。8月^の最終日 31日に園児一人が退園した。親の事情により退園することになった。

8月28日の朝日新聞のコラム「折々のことば」に皇后美智子さまの言葉が紹介され、興味深く読んだが、退園した園児のことが思い出された。

「読書は、人生の全てが、決して単純でないことを教えてくれました。私たちは、複雑さに耐えて生きていかなければならないということ。」

人々の思いや立場が交錯する中、複雑な世に、じろぎ飲み込んだ息は、それに耐えうる知的な肺活量を鍛えもする。とくに幼時の読書は、人生の「根っこ」と想像の「翼」と「痛みを伴う愛」を育むと、美智子皇后は20年前、インドで開かれた国際児童図書評議会世界大会でのビデオ講演で語ったという。

園を去っていく園児を考えながら、読書が子どもたちを育てるように、幼稚園での歩みが「根っこ」を養い、「翼」を広げ、「愛」されていることを体験し成長することに貢献できたなら、なんと幸いですか。

私たち人間は、どうしてもできないことには向き合わないことだ。過去は変えられないし、未来もどうなるかわからない。しかし今できることがある。それは今、最善を尽くすことである。過去に感謝、現在に信頼、将来に期待しチャレンジしたい。

「今の時を生かして用いなさい。」

(エフェソ 5:16、口語訳)



第二礼拝次第

説教：渡真利彦文牧師

聖書：ヨハネ 9:1-3 (新約聖書 p184)

メッセージ：「すべてをプラスに」

プレイズ：「鹿のように」 「御手の中で」

讃 美：新生 1 3 1 新生 6 2 7



ファミリー礼拝

説教：渡真利彦文牧師

聖書：士師記 11:1-11

メッセージ「トブの地のエフタ」